

【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	9名 村松徹、中島正寿、美濃部弥生、渡口禎、富永純子、久保井博美、日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和5年(2023年)11月6日(月)
詳 細	
視察日及び視察先	11月6日(月)午後1時～ 茨城県つくば市 ・都市計画部 学園地区市街地振興課
視 察 内 容	筑波研究学園都市と中心市街地のまちづくり
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば市は、面積は八王子市の約2倍、人口約半分 人口255,807人(2023年10月1日現在)の都市である。 ・住民基本台帳に基づいた人口、人口動態及び世帯数調査において、人口増加率は2,30%で、市区部において全国1位である。 ・市制施行時より35年連続人口増加を続けており、その要因に筑波研究学園都市建設とつくばエクスプレスの沿線開発の二つがあげられる。 ・筑波研究学園都市は、科学技術の振興と高等教育の充実、東京の過密緩和が建設の目的に、2つの都市構造を形成しており、研究学園地区は、研究機関や住宅、商業などを計画的に配置し、周辺開発地区では、工業団地やつくばエクスプレス沿線開発地区として、適切に機能分担をしている。 ・筑波研究学園都市の都市建設は、昭和38年(1963年)筑波学園都市の建設が閣議決定し、昭和55年(1980年)予定された43の国の研究教育機関等の移転・新設が完了し、研究学園都市が概成する。昭和60年(1985年)つくばEXPO'85開催され、つくばの名が知られるようになる。平成17年(2005年)つくばエクスプレスが開通し、都市発展期をむかえる。 ・筑波研究学園都市のまちづくりは、つくば中心市街地まちづくり戦略(2020年5月)として4つの方針、9つの重点戦略、8つのリーディングプロジェクトを明記、概ね5年間に市が先頭に立ち優先的に進める事業のリーディングプロジェクトを定めた。 ・つくば駅周辺のまちづくりに対して、まちに愛着を持ち、変化を強力的に推進するものが少ないことや、まちに必要な民間・行政では難しい取組をできるものがいないという課題があり、市と民間企業が出資して、つくばまちなかデザイン株式会社を2021年4月に設立した。

・つくばまちなかデザイン株式会社は、ひろばや地下駐車場、さらに 2022 年 5 月 co-en(コーエン)を、新たな市民活動拠点として 2024 年 2 月にオープンさせる。

・働く人を支援する場 co-en(コーエン)は、貸しオフィス、コワーキングスペース、イベントスペース、カフェ&バー、シェアキッチンなど予定している。

・市は各種イベント、情報発信、その他ロボット配送、ロボットカフェの運営、コンサルティングなどの収益事業、イルミネーションや駐車場の事業を実施する。

【質疑応答】

問)つくば市地元企業 MINTO とはどのようなものか。

答)国土交通省が資金を出して作っている、民間のまちづくりを促進するためにできている団体である。再開発事業を行う時、一部資金を融資する国の第三セクター的な団体。

問)いくら位融資してもらったか。

答)3億円くらいで整備を行っていく。民間の銀行よりは安く、担保はないが、補助とは違い返済していく。

問)楽天の自動配送は始めて何年か。

答)1年くらいである。

問)東京都もスマートシティ構想で、南大沢で自動配送を試行的に行う予定である。人は必ず付きそうのか。

答)今のところ実証的に行っている。事故やアクシデントを集めることを目的にしている。制度上、人が一人付かないといけない。

問)将来的には無人になっていくのか。

答)無人を目指している。

問)まちづくり株式会社に楽天からの出資を得ているのか。

答)地元つくば市の会社3社である。株主としての発言権がある。

問)会社へ市から出向はあるのか。

答)退職派遣は1名ある。

問)市はどのようなことに関与しているか。

答)駐車場の管理、ひろばの許可、イベントの相談などである。

	<p>問)人口増加が続いているが市としての準備はどのようなことがあるか。 答)完成していないところがまだあるので、市街地の開発を行っている。住みやすいまちづくりを行うことで、結果的に人口が伸びていくと思う。</p> <p>問)人口増加のために宅地を開発しているのか。 答)つくばエクスプレス駅周辺や公園もゆとりをもって作っている。それに合わせて計画人口を増やしている。人が増えれば、店も増える。魅力が高まれば、人も増えていく。</p> <p>問)高層マンションの計画はあるか。 答)どちらかという高さ抑えている。その結果まちの魅力が高まっている。</p> <p>問)SDGsの取り組みはあるのか。 答)ゼロから作ったまちである。車と歩行者が交錯しない整備、緑地・公園を多く作っており、当初のまちづくりを継続している。</p> <p>問)市民の方へのアンケート調査から、市民が科学のまちの便利さや住みやすさを、一定数の方が感じられていないとあるが、恩恵を感じられない方への取り組みは。 答)中心市街地は研究者1万人で一定数の方には理解を得られているが、その周辺地域の方には、スーパーシティとは何かと丁寧に説明を行っている。</p> <p>問)歩道が広いが何か使う予定はあるのか。 答)駅前のロータリーは、何も無いところでまちづくりを行ったため、ゆとりをもって作ってある。</p>
<p>所 感 等 (意見・課題・ 本市への反映など)</p>	<p>もともと農村だった地域が、いまや29の国の研究教育機関や150にも及ぶ国・民間の研究機関・企業が立地する日本最大の研究開発拠点である。 日本で初めての無電柱化の制度「つくば市無電柱化条例」、緑豊かなゆとりある都市環境、ペDESTリアンデッキ(延長4.8km)の都市インフラ整備などの中心市街地のまちづくりが充実していた。 地域企業と共同の官民連携事業である「つくばまちなかデザイン株式会社」の出資事業は、今後展開される新たなまちづくりに期待が膨らむ。 人口増加が進むまちつくば市の、一歩進んだ住みよいまちづくり「スマートシティ」の魅力を参考に、八王子市でも推進していきたい。</p>

詳 細	
視察日及び視察先	11月6日(月)午後2時30分～ 茨城県つくば市 ・政策イノベーション部 科学技術戦略課
視 察 内 容	つくば市の科学技術振興に関する取組について
概 要	<p>つくば市が取組を進めている「つくば市科学技術・イノベーション振興指針(第3期)」「つくば Society5.0 社会実装トライアル支援事業」について、つくば市政策イノベーション部 科学技術戦略課の方よりお話をお聞きしました。</p> <p>【つくば市科学技術・イノベーション振興指針(第3期)について】 つくば市は、2022年に「科学技術・イノベーション振興指針(第3期)」を策定し、基本方針に基づいた施策を進めています。今回の視察では、特に基本方針4「科学技術で新たな選択肢を創出する」に焦点を当て、「つくばスーパーサイエンスシティ構想」について話を聞きました。 「つくばスーパーサイエンスシティ構想」は、6つの分野(移動・物流、行政、医療など)で先端的なサービスを社会に実装することを目指しています。五十嵐市長を本部長として、「つくば市スーパーシティ型国家戦略特別区域推進本部」を設置し、大学、国立研究機関、民間企業と連携して「住民中心のスーパーシティ」を目指しています。</p> <p>(参考リンク) ・つくば市科学技術・イノベーション振興指針(第3期) ・つくばスーパーサイエンスシティ構想</p> <p>【つくば Society5.0 社会実装トライアル支援事業について】 本事業は、国が提唱する「Society 5.0」という未来社会の実現に向けたトライアル(実証実験)を全国の企業や研究機関、教育機関から公募し、優れた提案を全面的にサポートするための取り組みです。具体的には以下のポイントが挙げられます。</p> <p>トライアルの支援: つくば市をフィールドとしたトライアルを通じて、先端技術等による新たな社会の構築を図ります。これにより、未来社会を先導する先進的な取り組みを呼び込み、つくば市の課題解決や市民生活の向上、地域経済の活性化を目指します。</p> <p>ビジネスモデル開拓の加速: 先端技術の実用化を支援し、新たなビジネスモデルの開拓を加速させることで、持続可能性と強靱性を備えた社会を実現します。</p> <p>2023年度からは「スマートシティ」「つくばスーパーサイエンスシティ構想」の実現を一層加速することを目的に名称を「つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業」に変更して、取り組みを加速させています。</p>

	<p>(参考リンク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つくば Society5.0 社会実装トライアル支援事業 ・ つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業
<p>所 感 等</p> <p>(意見・課題・ 本市への反映など)</p>	<p>世界的な科学技術拠点都市として、多くの研究者、研究機関を要するつくば市での最先端の取組(「スーパーサイエンスシティ構想」「Society5.0」)について学ばせて頂きました。</p> <p>一番印象に残ったのは「目指す社会」のビジョンが明確なこと。つくば市というフィールドを最大限活かし新たなビジネス開拓を行政が後押しすると共に、先端 ICT 技術を公共サービス、市民サービスの創出につなげていく取組が、しっかりとリンクしている、地に足のついた着実な取組だと、担当者の方の話を聞いて実感しました。</p> <p>八王子市は子育て世帯から、学生、高齢世帯まで他市ではあまり例のない人口分布のまちの一つです。この特徴を生かし、多世代にわたる実証実験も可能で、ビジネス開拓のフィールドとしての活用など、新たな取組を進めていきたいと思えます。</p> <p>また、つくば市 HP では「つくばで輝く研究者」というページを作成し、研究者とその研究成果が分かりやすくまとめられています。研究、研究者、大学など身近に感じることの出来るとてもいい取組だと思います。</p> <p>八王子市も多くの大学を要する「学園都市」ですが、産官学のつながりがまだまだ不十分だと感じています。どの大学で、どういった研究がされているのか。どのような実績があるのか分かりにくいのが現状です。つくば市を参考に、行政が中心となって、産官学プラス市民とのつながりをもっと深めていくことができるのではないか、と今回の視察を通して実感することができました。</p>

視察の様子



都市計画部 学園地区市街地振興課



政策イノベーション部 科学技術戦略課



つくば市役所前にて